



「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っている。

発行：誇りと夢・まちづくり日新広報部  
文京5-1-8 日新公民館  
発行日：2012年9月20日

日新

荷日新 荷に日に新たに  
日日新 日々新たに  
又日新 又日に新たなり  
出典 「大学」

ゆめにっしん

乾徳 乾公園



大道芸人コロさんの  
すご技にみんなで大拍手！

たのしいアニメや交通安全の映画を見たよ



夏まつり 盛況！



7/25 子ども映画大会  
ふれあい会館にて



7/26 日新地区日踊大会

文里 白山神社 7/29



加藤胡柳さん (95) 乾徳3

—元気のもと探究心はますます旺盛—

大正7年のお生まれ。教員を退職されたあと、関心の篤い有機農法による野菜や豆腐作りをする『ゆうきの会』を主宰。1つ1つの料理にはさし絵付きの詳細なレシピが保存され、それらをまとめて『折々の味』として本も作られている。中でもちまきは「今でも毎年100個程作り、子どもや知り合いに配りますよ」とにっこり。公民館へも指導に来られて、今年の6月にはニッキーズの子どもたちに伝統の製法を伝授。また、玄関に飾られた日本画「干あゆ」も自作。絵はかつて市長賞を受けた腕前である。自宅野菜作りを楽しみ、家を取り巻く樹木も自ら手入れして、不要の小枝で作ったすりこぎやフォーク・コースターなどは、趣味の域を超えて観賞できる作品である。



(友田)



手書きのレシピ



おいしそう「干あゆ」

わがまち匠

画家 (日本画)

岩堀 葉さん (29) 文京5



—日々表現するという事—

私は、日々表現するという事を大切にしています。時々ライブペイントもやります。ライブペイントとは、その場の雰囲気や音楽や空気のイメージを感じとり、自分のフィルターを通して表現していきます。私は和の美しさや芽吹く花のイメージが好きで、私の描くものには必ずといっていいほど花が登場します。好きなものを自由に感じ、自分の表現で描くという事。そのきっかけくれたのは母です。幼い頃、母は大きなカレンダーの紙をつないで台所の机いっぱいキャンパスにしてくれました。そして当時では珍しい3段のクーピーを買い与えてくれました。3段のクーピーなんて子どもからすれば興奮もの！いろんな赤、いろんな緑があり、目が眩くなるような蛍光の色も初めて見る色でした。3段のクーピーを見るたびにドキドキわくわくしたのを覚えています。どろんこ遊びもそうですが、自由に表現するという事は、とても大切な事。大人になってからの自分の軸をつくるものだと思います。成長するにつれ上手に描こうとし、常識にとらわれて自由に表現できなくなっていく。太陽は赤、空は水色で描かないといけない決まりなんてありません。特に子どもたちには固定観念にとらわれず、思う存分夢中に表現してほしいと思っています。(岩堀)



※8月、「福井夏まつり」会場の中央公園で、噴水の中やそのまわりを使って岩堀葉さんによる「ライブペイント」が披露されていました。200本ものキャンドルに映し出されて優しく揺れるような絵は、まるで19世紀のガレのランプを彷彿とさせるものがありました。学生時代に勉強強かったのはじっくりと繊細に描かれる日本画のことですが、最近はこのようなダイナミックに色を使うライブペイントにも取り組まれています。



まだまだ先が楽しみな1児のママ。芸術の風をこの日新地区からたっぷりと吹かせて下さることでしょ。(村上)

漆新4自治会(乾徳4)  
森瀬明(福井新聞社勤務)

8月下旬の新聞で、日新地区での地域コミュニティバス運行が承認されたと報じられていた。既に中山間地域では走っているが、市街地では初めて。高齢化や人口減少に伴う「買い物難民」「限界集落」の問題が日本中で取りざたされているが、身近なわが地区も同じ課題に直面していると再認識させられた。住民の足の確保は生き生きと暮らせる地域コミュニティの維持と表裏一体であり、まちづくり実行委員会をはじめとする関係者の取り組みに敬意を表しつつ、推移に注目、期待したい。

仕事柄、まちづくり、地域起しの多様な活動や現場で汗を流す熱い人々を取材し、逆に教えていた。だが、このことも多い。2年前に新聞で「地域力の担い手」と題した連載を手掛け、行政だけでは解決できない課題に対応しよう、地域の共同の力で活動している県内の実例を紹介した。連載を通して痛感したのは、地域の最大の資源は「人」であり、人と人のつながり、交流、連携こそがこれからの地域を支える最も重要な「社会資本」であるという点だ。

「地元学」を提唱して全国各地のまちづくりを応援する民俗研究家の結城登美雄さんからは「地域を生きる一人の当事者として地域を見つめ直し、一緒にやれば地域はよくなる」と聞いた。地域のため多くの人の力と知恵を持ち寄り、主体を形成する大切さをあらためてかみしめている。

# 誇りと夢 わがまち創造事業

## 交通部会 ー公民館まつりにプレオープンー

8月25日の福井新聞で報道された通り市街地区で初めて日新コミュニティバスが運行される運びとなった。

これまでの経緯としては、6月に運行事業者に対しプレゼンテーションを行った。5社の運行事業者の参加のもと、日新コミュニティバス事業計画の今までの経緯、日新地区住民の思い、是非とも日新コミュニティバスを運行したいという考え方を説明した。7月には、4社の運行事業者に出席を頂き、「運行事業者選定会議」が開催され、5人の審査員による審査の結果、日新地区交通部会の思いであった京福バス㈱に決定された。8月24日、市役所の有識者会議「地域生活交通活性化会議検討会」の了承を得て、はれて「日新コミュニティバス」が運行可能となったのである。

一方、8月10日にコミュニティバスの先進地である「大野コミュニティバス」の視察研修を行った。福井県大野市の「おののまちなか循環バス」は、市内高齢者や冬季間の高校生の足として、また、観光客の利便性を考え発足。2年間の試行運行を経て、3年目の本格運行に入っている。コミュニティバスの運転手、乗車利用の乗客にいろいろとお聞きしたところ、利用促進にはまだまだ課題が多いと感じられた。

日新コミュニティバスも、道路運送法の許認可を経て、10月21日の日新公民館まつりに無料乗車プレオープン、11月4日(日)にコミュニティバス出発式、11月5日(月)に試行運行開始の計画で進めている。我々交通部会としては、一人でも多くの乗車利用客があるように利用促進対策を考え、日新地区住民のみなさまにご利用をお願いしたいと思っている。 牧田 孝



越美北線 越前大野駅

## 文化部会 ー伝統文化体験学習ー

7月18日(水)日新小学校6年生を日新公民館に迎えて伝統文化(茶道と華道)の体験学習会を行いました。今年は茶道25名、華道28名が参加しました。慣れない手つきで子どもたちが一生けん命に茶道と華道に取り組む姿は、われわれお手伝いをするものにとって非常にうれしく、やりがいを感じました。閉会挨拶のとき体験の感想を発表してもらいましたが、おくせずに多数の児童が手を挙げての発言があったことは頼もしい感じがしました。 山崎 豊



## 環境部会 ー底喰川ウオッチングー

日新地域子ども塾・子どもの広場が主催する、恒例の底喰川ウオッチングが8月24日(土)実施されました。誇りと夢・まちづくり日新環境部会は、事業の円滑な遂行と安全確保の支援要請を受け対処してきました。11日の打ち合わせを経て、19日には早朝より会場周辺の草刈り・ミンハギの手入れと安全確保の点検を行いました。猛暑の中での作業でしたが、部会員の尽力と機械力のお陰で会場を綺麗に整備することが出来ました。

24日は、安心してウオッチングを体験し、楽しいひとときを過ごせるように、魚釣りにおける危険防止の監視役、公民館では釣り上げた魚の魚拓作りの手伝いを行いました。今年の釣り上げの成果は今一でしたが、それでも子どもたちのいきいきとした姿には心が洗われました。一方、魚拓作りにと言うことであっても、生命を提供してくれた魚などに感謝したいと思います。 前川栄寛



## わがまち上里第四自治会

ーバーベキュー大会で親睦をー

わがまち上里第四自治会は、日新小学校の東側に位置し、子どもたちの歌声やグラウンドでスポーツをする声が聞こえてくるのどかな住宅地です。自治会が誕生したのは昭和56年で、上里町町内会が4つに分割された折、27世帯でスタートしました。現在は43世帯に増え、4つの班に分かれています。

わが自治会独自の行事は、夏恒例のバーベキュー大会です。これは、会員相互の親睦を目的として、昭和60年に始まりました。新規会員の方の紹介もあり、新旧会員の親睦をはかる場としても欠かせない行事です。男衆が会場設営等の準備をして焼き鳥を焼き、婦人会が焼きそばやその他の料理を担当、子供会がビンゴゲームやかき氷などで盛り上げます。大人から子どもまで参加できるカラオケも楽しみの一つです。

今年も夏休み最後の日曜日、8月26日に90名近くが参加して楽しいひとときを過ごすことができました。また、準備から後始末までみんなが力を合わせて行うことで、絆も深まりました。

上里第4自治会長 吉田 智



## 常設型ごみステーション設置

ー折りたたみ式(ステンレス・アクリル製)ー

現行、ブルーシート対応で「ごみステーション」として各自で管理していましたが、班の多くの方々から、自己負担をしても「常設型ごみステーション」の設置を希望する機運が高まり、検討することになりました。設置理由としては、①回収時間が遅いため見栄えの悪さ。②動物等の散らかしによる不衛生さ。③雨天・降雪時のシートの出し入れの不便さ。④出し入れの簡便さと環境美化のため。などがあげられます。一方で問題点としては、1. 降雪時の対応をどうするか。2. 費用負担の点。3. 公的補助金は受けられるのか、など。

これらのことを念頭に業者との交渉を重ねて、ついに設置に至ることが出来ました。実際に使ってみると軽量で清潔であること、多少の出費を差し引いても十分満足できると好評でした。

湊新4自治会 2班 中西成人  
3班 橋本裕之



## 底喰川 その10

一境橋下流の「ぐねぐね曲がり」ー

前回の22号で底喰川の「ぐねぐね曲がり」に触れたが、平成4年発行の「福井県史資料編糸里復原図」を見ると現在の底喰川と比較できないほどひどいものだ。欲張って部分図2箇所載せた。いっごろまでこういう状態だったかは不明。

「福井県史資料編糸里復原図」は、現行の地形図の上に明治9年作製の地籍図を重ね合わせて作製したものであり、この資料を借りて適当に縮図した。

(地図中の地名は小字名) (西)

